

ほりまち 堀町遺跡（第5次）

所在地：松阪市朝田町

位置情報URL：<http://www.gis.pref.mie.lg.jp/mmm/index.html?z=128&ll=34.57054861111111,136.56697740112995>

発掘調査が終了しました！！

昨年5月に始まった堀町遺跡の発掘調査は、2月に終了しました。約8ヶ月間という長い期間にわたる調査になりました。ここでは、現地説明会（12月1日）開催後の調査成果を紹介します。

朝田寺ちょうでんじの東側を調査したところ、鎌倉時代末から室町時代（13世紀末～16世紀）にかけての遺構いこうが数多く出てきました。これまでの調査区に比べ、やや新しい時代の集落があったようです。



たくさんの柱跡が見つかりました。

井戸・井戸・井戸!!!

12月以降、新たに10基の井戸が見つかりました。堀町遺跡では、今回の調査だけで20基以上、1～6次調査を合わせると約60基もの井戸が見つかっています。地元では、堀町遺跡のあたりを「井戸街道」と呼んでいるようですが、この呼び名は、こうした井戸の多さに由来するのかもしれませんが。

井戸には2つの種類があり、時代によって形・つくりが変わっていることがわかりました。

(1) 平安時代～鎌倉時代の井戸

四角く大きな穴を掘り、板を縦・横に組んだ井戸枠を設けていました。



四角い穴の真ん中に、方形の井戸枠があります。



分厚い板を四角く組んだ見事な井戸枠です。



よこさん
横棧で縦板と横板をうまく固定しています。



縦板の長さは女性の背丈ほど。表面にはちような手斧の工具跡があります。



まげもの
底には曲物を2段重ねています。

(2) 室町時代の井戸

鎌倉時代までの井戸に比べ、井戸枠をすえた穴が丸く、やや小さくなっています。また、井戸枠には井戸用の長い桶（結桶^{ゆいおけ}）を用いているのが大きな違いです。



桶の長さは約2mありました。表面には「」と刻まれています。何かのおまじないでしょうか？



桶の上下は竹のタガでとめられています。タガに楔を打ち込んで、板をきつく締めています。



曲物が出てきました。水が激しく湧いてきます。真冬の井戸掘りはつらい作業です。寒い…



桶を2段積み上げるものもありました。

まとめ

今回の調査では、井戸づくり技術の発展過程がよくわかりました。また、非常に広い範囲を調査したことで、時代ごとの生活範囲や地形環境の違いが、少しずつ明らかになってきました。

堀町遺跡では、平安～鎌倉時代には水の湧きやすい土地で生活を営んでいますが、室町時代になると、結桶を用いて深い井戸を効率的に作るための技術が普及し、地下水を得にくい場所にも集落が広がっていったのではないかと考えられます。

来年度も堀町遺跡の調査は続きますので、今後の調査や、整理作業の進展にご期待ください！

<問い合わせ先>

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503

三重県埋蔵文化財センター調査研究1課

担当者：櫻井・門野・谷口

電話番号：0596-52-1732/FAX：0596-52-7035

E-mail：maibun@pref.mie.jp